

総合運動公園の整備に向けて

構想の背景

- 現在、生涯を通じて心豊かな生活をするために、健康であることへのニーズが高まっていますが、同時に、運動・スポーツに対する実施目的や内容の多様化により、運動・スポーツの役割が変化しています。そのため、市民一人ひとりのライフスタイルに応じた環境づくり、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ機会と場所づくりの施策を展開していく必要があります。
- 本市の主要な運動施設につきましては、建設当時では、十分な規模・機能を有していたものの、市民一人ひとりのライフスタイルに応じたスポーツへの取り組み方の多様化や、施設の老朽化により、現在では、市民ニーズへの対応が困難な施設となってきました。また、各運動施設が市内に点在しているため、利用者にとって、不便な面も生じてきています。

【構想の目的】

本構想は、市民や関連団体からの意見を把握し、市内に点在する既存運動施設の現況を把握して本公園整備との関連を整理し、**新たに導入すべき施設の内容を明確にしたうえで、公園整備場所としてふさわしい場所を絞り込む**ことを目的としています。

構想の位置付け

- 平成28年3月に策定しました「第五次新居浜市長期総合計画（後期計画）」の後期取組方針においては、大規模なスポーツ大会や各種イベントが開催できる施設の整備に向け、立地場所や施設内容、規模等も含めた**総合運動公園構想の策定を行う**こととしています。
- 平成26年3月に策定しました「新居浜市スポーツ推進計画」においては、「市民のライフステージに応じて 親しむ・楽しむ・育てる スポーツまちづくり」を基本理念とし、基本目標に「**施設環境の整備と既存施設の活用**」を掲げています。
- 本構想は、上位関連計画をふまえ、スポーツへの取り組み方の多様化への対応、施設の老朽化への対応と集約化をめざして、運動公園整備に向けた基本的な事項・方針を定めます。

上位計画

- 第五次新居浜市長期総合計画（後期計画）
- 新居浜市スポーツ推進計画
- 新居浜市都市計画マスタープラン
- 新居浜市緑の基本計画

関連計画

総合運動公園計画に関する方針

- ・ 大規模なスポーツ大会、各種イベントに対応
- ・ ジュニアスポーツからトップアスリートへ貫して育成
- ・ 市民が楽しみながらスポーツ・運動を取り入れられる生活を実現
- ・ 市民が安心して快適にスポーツに親しめるよう施設の維持に努める
- ・ プロスポーツ、全国大会規模が誘致できる施設整備を検討
- ・ 既存施設の維持更新を図り有効活用を進める
- ・ 東部丘陵地に運動公園を計画する

本構想への指針

- ・ 大規模なスポーツ大会、各種イベントを開催できる施設の整備に向け、総合運動公園構想を策定する
- ・ 市民や関連団体の意向を把握する
- ・ 既存施設の有効活用を図る
- ・ 新たに整備するスポーツ施設を設定する
- ・ 新たなスポーツ拠点の整備場所を絞り込む

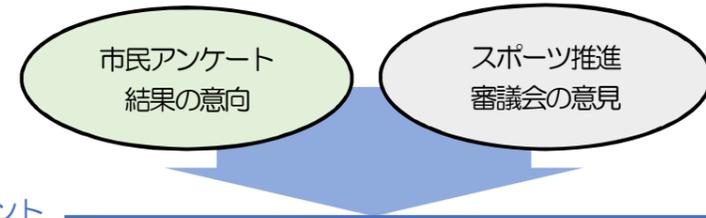
基本的な考え方（1）

基本的な考え方

上位関連計画に示された指針に基づき、「市民や関連団体の意向把握」のために市民アンケートを実施しスポーツ推進審議会からの意見を受けます。また「既存施設の有効活用」のために既存施設の現状を把握します。

検討のポイント

- 市民やスポーツ推進審議会の意向をふまえて本構想への指針を導きます。



検討のポイント

- 【計画地の立地】
 - ・ 市街地からの交通利便性を重視
 - ・ 平尾丘陵地を第一候補として整備場所を比較検討
- 【整備水準】
 - ・ 生活空間に近い運動・スポーツ施設は別施策にて実現
 - ・ 公式大会が開催可能な、現状よりもう少し大きな施設を新設
 - ・ 駐車場等を完備
- 【施設の選定方法】
 - ・ 競技人口と市民ニーズをふまえて新設施設を選定
- 【施設の種類の】
 - ・ 最も整備希望が多い総合体育館を新設
 - ・ 総合体育館は2つのアリーナ、屋内トレーニング場、重量挙げ練習場、ジョギングコースを内包し、弓道場が隣接
 - ・ 既存施設の活用を図ってプールを充実
- 【事業計画】
 - ・ 事業スケジュールを検討
- 【その他】
 - ・ 既存施設は耐用年数を踏まえて利用・整備計画を検討

【市民アンケート結果の意向】

- 問① どこにつくるのが最も良いと思いますか？
意向→ 平尾地区に一部集約し一部分散する案が、430人と全体のほぼ半分を占める。平尾地区へすべての施設を集約する案の309人、全体の35%を加えると、8割強の人が平尾地区への整備を望んでいる。
- 問② 市で特に整備して欲しい運動・スポーツ施設がありますか？
意向→ 体育館、屋内トレーニング場、プール、ジョギングコースについて、各々約3割の支持がある。
- 問③ どのような水準の運動・スポーツ施設が必要だと思いますか？
意向→ 約3割の人が、生活の場に近く気軽に使える施設を希望している。市民団体や学生が練習や公式戦に使える施設、現在の施設よりは大規模な施設を希望する人が各々約2割であり、全体の4割程度の人が公式戦に使えるような施設を希望している。
- 問④ どのような利用料金体系の施設を利用しますか？
意向→ 安価で必要最小限の機能を持った施設を希望する人が全体の約半数の437人となっている。

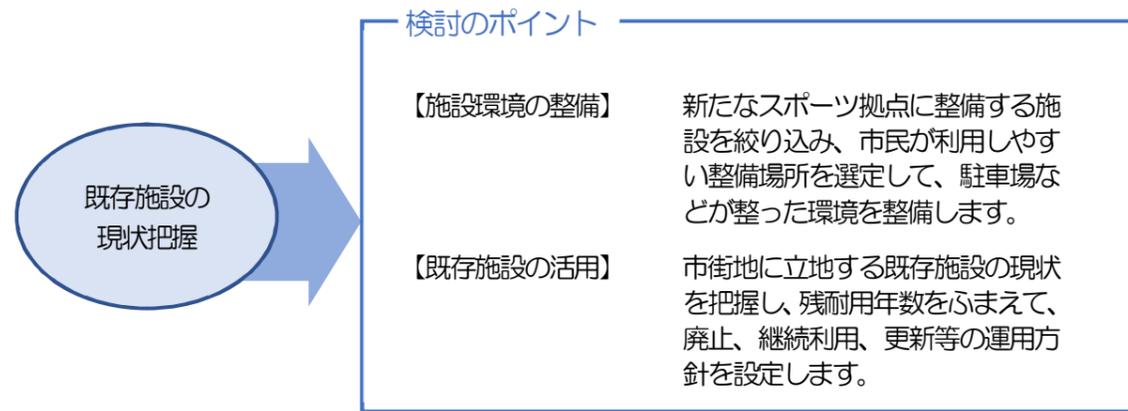
基本的な考え方（2）

【スポーツ推進審議会の意見】

- ① 市民が利用しやすい施設を目指し、アクセスを優先考慮した施設配置と駐車場等の競技環境が整った施設を整備すること。
- ② 新居浜市の競技力向上を目指し、トップレベルの大会等が開催できるなど各種目の標準規格を有する施設規模とすること。
- ③ 競技人口及び市民ニーズを踏まえた集約すべき施設を決定し、年次計画に第1期の着手時期、施設の種類の明確にするなど、実現に向けて取り組む姿を市民に示すとともに、早期着手を目指されたい。
- ④ 既存施設については、耐用残存年数を踏まえた利用及び整備計画を検討すること。また、現東雲市民プールはレジャー施設として位置付けし、本構想と切り離して検討されたい。
- ⑤ 審議会において各委員から述べられた意見及び要望について、今後十分に検討していただきたい。

検討のポイント

- 「施設環境の整備」と「既存施設の活用」を図ります。



構想（1）

整備方針

総合運動公園（新たなスポーツ拠点）を整備するにあたり、市民アンケート、スポーツ推進審議会、各種関係団体の意見をもとに、整備方針をつぎの3点とします。

- ・ 気軽に便利に利用が可能
- ・ 公式戦等の開催が可能
- ・ スポーツを「観る」ことが可能

施設配置方針

「既存施設の有効活用」を図りつつ、現所在地での更新が困難な施設については新たな拠点にて集約（一部機能分担）して整備します。

構想（2）

個別施設の整備・運営方針

- 総合運動公園（新たなスポーツ拠点）には次の施設を導入します。

【導入の理由】 対象施設

【現所在地での更新が困難な施設】 → 陸上競技場、総合体育館（メイン）、野球場

【市民アンケートで要望の多い施設】 → 総合体育館（メイン）、室内トレーニング場、ジョギングコース

【他施設と近接・併設することで利便性が大幅に向上する施設】

→ （近接）総合体育館（メイン）、陸上競技場

（併設）総合体育館（メイン）、重量挙げ練習場、弓道場、柔剣道場

導入する施設	整備費（円）	規模
総合体育館*（メイン）	約42～51億	アリーナ、観客席4,000人程度、サブアリーナ、トレーニング室、重量挙げ練習場、柔剣道場、室内ジョギングコース
弓道場	約1.8～2.4億	総合体育館に隣接
陸上競技場	約11～13億	第3種公認+機能追加（更衣室、シャワー室など）、2,000人
野球場	約14～22億	本塁から左右両翼99.058m、本塁から中堅121.918m 観客席8,000人程度、外野は芝生席
ジョギングコース	外構整備費に含む	総合運動公園の外周等を活用（3～4km）

※ 総合体育館は当初山根地区での新設も検討しましたが、他施設と近接することによる利便性の向上と、市民が最も多く利用する施設であることから、より良好な交通利便性が求められることを考慮し、新たな拠点で新設することとしました。

- 既存施設の運営方針を次のように設定します。

既存施設	残耐用年数	運営方針
東雲市民プール	1年	・当面は現施設を維持 ・更新する場合は、現位置で整備
弓道場	12年	・当面は現施設を維持 ・総合運動公園へ新設した場合は廃止
重量挙げ練習場	15年	・当面は現施設を維持 ・総合運動公園へ新設した場合は廃止
山根屋内プール	17年	・現施設を維持 ・建替える場合は同種施設である東雲市民プールとの連携を考慮し東雲体育館跡へ新設
東雲市民体育館	26年	・当面は現施設を維持 ・総合運動公園へ新設した場合は廃止
市営サッカー場	28年	・現施設を維持
多喜浜体育館	33年	・現施設を維持
市営野球場	34年	・当面は現施設を維持 ・総合運動公園へ新設した場合は廃止
山根体育館（サブ）	36年	・現施設を維持
山根テニスコート	—	・現施設を維持 ・状況によっては公式戦が開催可能となる8面へ拡充を検討
東雲競技場	—	・総合運動公園に新設後も使用できる間は使用

※ 東雲市民プールについては、10円プールとして市民に親しまれているため、耐用年数経過後も可能な限り存続を図ります。

構想(3)

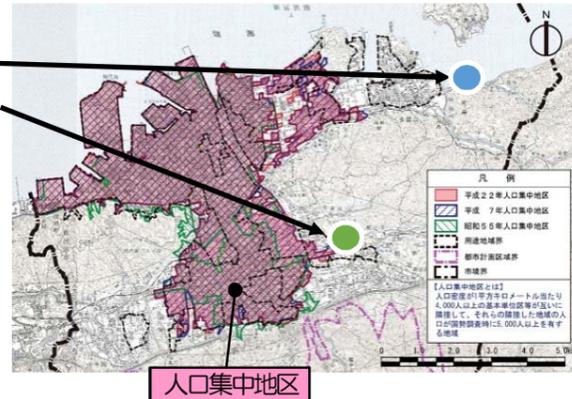
新たなスポーツ拠点(総合運動公園)の整備場所

○ 整備場所選定を以下の手順で進めます。

① 候補地を抽出します。

上位計画において開発の方針が示され、一団の平坦地が確保できる候補地を抽出します。

【荷内埋立て地】→都市計画マスタープランp91
 【平尾丘陵地】→都市計画マスタープランp61、p97



② 先の検討に基づき導入施設を確認します。

【運動施設】総合体育館(メイン)、弓道場、
陸上競技場、野球場、ジョギングコース
 【公園サービス施設】駐車場、園地、植栽地

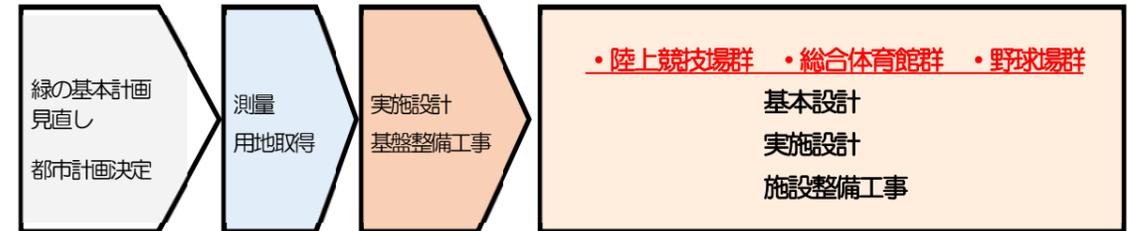
③ 2候補地を比較し、平尾丘陵地を優秀と判断します。

評価点の計算：◎3点 ○2点 △1点 ×0点

比較項目	候補地	平尾丘陵地	荷内埋立て地
利便性	交通利便性が良好	◎ 人口集中地区に接する 新居浜駅及び新居浜I.C.から 各2.0km	△ 人口集中地区から遠い 新居浜駅から8.0km 新居浜I.C.から9.5km
周辺環境	自然環境への影響が少ない	△ 林地開発が必要で影響あり	× 埋立て開発が必要で影響大
	住環境への影響が少ない	△ 光害、交通量増大の影響あり	◎ 影響は極めて少ない
開発要件	必要面積が容易に確保できる	△ 保安林解除の必要あり 造成工事は困難ではない	× 瀬戸内法の規制あり
	用地取得が容易	○ 地権者は複数だが宅地はない	△ 漁業補償は完了済みであるが 各関係者との調整が必要
	開発費用が廉価	△ 基面造成費は約56~68億円 (用地取得費含む)	× 基面造成費は 約95~116億円
	敷地の拡張性がある	○ 山林の自加造成は可能	△ 埋立事業の拡張は長期になる
自然災害	地震・津波による被害を受けにくい	△ 斜面地崩壊の危険あり	× 津波の被害は免れない (防災公園の位置づけができない)
評価点		12点(×はなし) 整備地として選定	6点(×は4項目あり)

④ 整備スケジュールは次のとおりとします。

なお、施設の整備順序につきましては、整備費用、補助制度及び耐用年数等を考慮しながら進めていきます。



⑤ 平尾丘陵地におけるゾーニングを検討します。

開発面積 約35ha
 事業費総額 約140~176億円
 運動施設整備費
 + 用地購入・造成費
 + 外構整備費

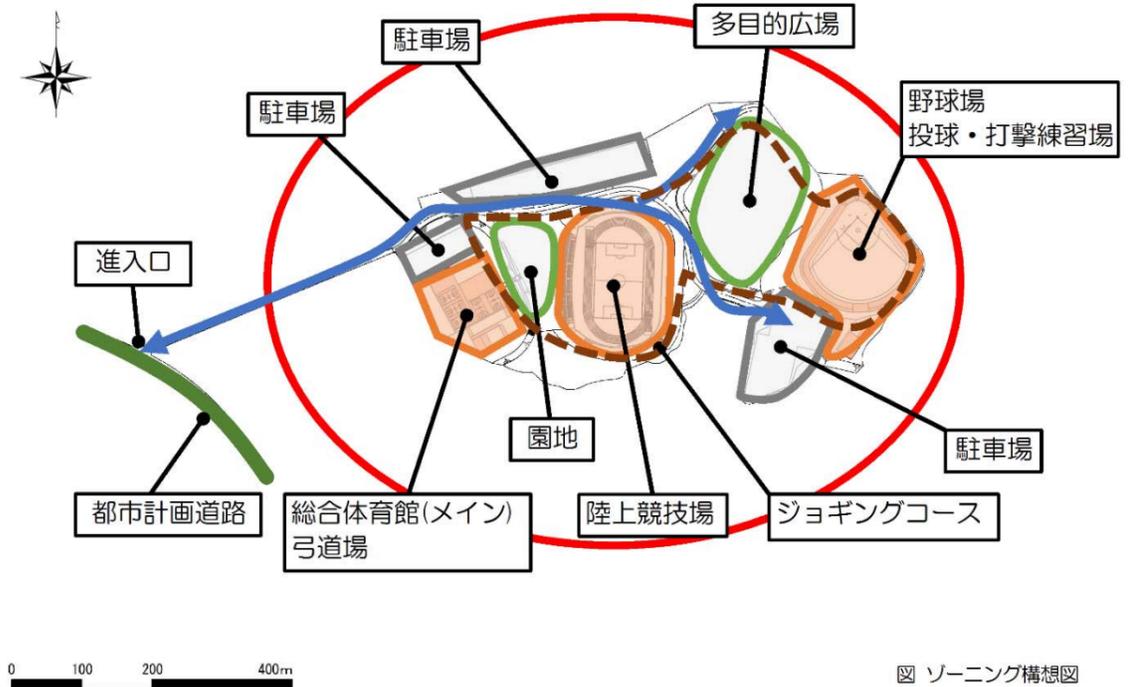


図 ソーニング構想図